

獨協大学前＜草加松原＞駅西側地域

未来ビジョン Ver.2

令和8年3月



はじめに

1 獨協大学前＜草加松原＞駅西側地域とは

- ・ 対象範囲
- ・ 地域のあゆみ

2 未来ビジョン

- ・ 策定の目的
- ・ 策定にあたっての取組

3 地域の特性

- ・ 人口特性
- ・ 空間特性
- ・ 魅力と特徴
- ・ 課題
- ・ SWOT分析
- ・ 求められる取組

4 地域の目指す将来像

- ・ 目指す状態
- ・ 将来描きたいシーン
- ・ 将来の活動イメージ
- ・ 未来ビジョンに基づく4つの活動テーマ

5 目指す将来像に向けた施策

- ・ 推進体制
- ・ リーディングプロジェクト
- ・ アクションプラン
- ・ ロードマップ

おわりに ～まちづくりに参加したい方へ～





獨協大学前＜草加松原＞駅西側地域は、日本住宅公団（現：都市再生機構）が昭和30年代に建設した約54ha、全5,926戸の草加松原団地が立地し、「東洋一のマンモス団地」と呼ばれ、多くの人の憧れの住まいでした。

団地の整備とともに、商業、福祉、医療、行政等のサービスを提供する施設が多く立地し、草加市内で一番の乗降客数を誇る草加駅と共に市街地が形成されてきました。

時は流れ、建設から約40年が経過し、建物や設備の老朽化の改善、生活水準の向上を目的として草加松原団地建替事業が実施されました。草加松原団地はコンフォール松原と名前を変え、分譲マンション、戸建住宅、草加市松原児童青少年交流センターmiraton、商業施設、大学関連施設が新たに整備され、まちなみが大きく変化しました。

建物の整備が一段落し、より洗練された住宅地となった本地域において生じる様々な課題を解決するためには、行政、地域事業者、地域団体、住民等の関係者が地域の将来像を共有して、連携することが必要不可欠です。

本未来ビジョンは、地域事業者、地域団体、住民等の意見を広く取り入れるためにヒアリング、アンケート、ワークショップを実施し、地域の特性やコンセプトを取りまとめ、地域が自ら作りあげた「未来ビジョンVer.1」として、この度完成に至りました。

また、まちづくりミーティングの参加者とともに、活動テーマごとのリーディングプロジェクトを実施し、その結果を取りまとめ「未来ビジョンVer.2」としてアップデートしました。

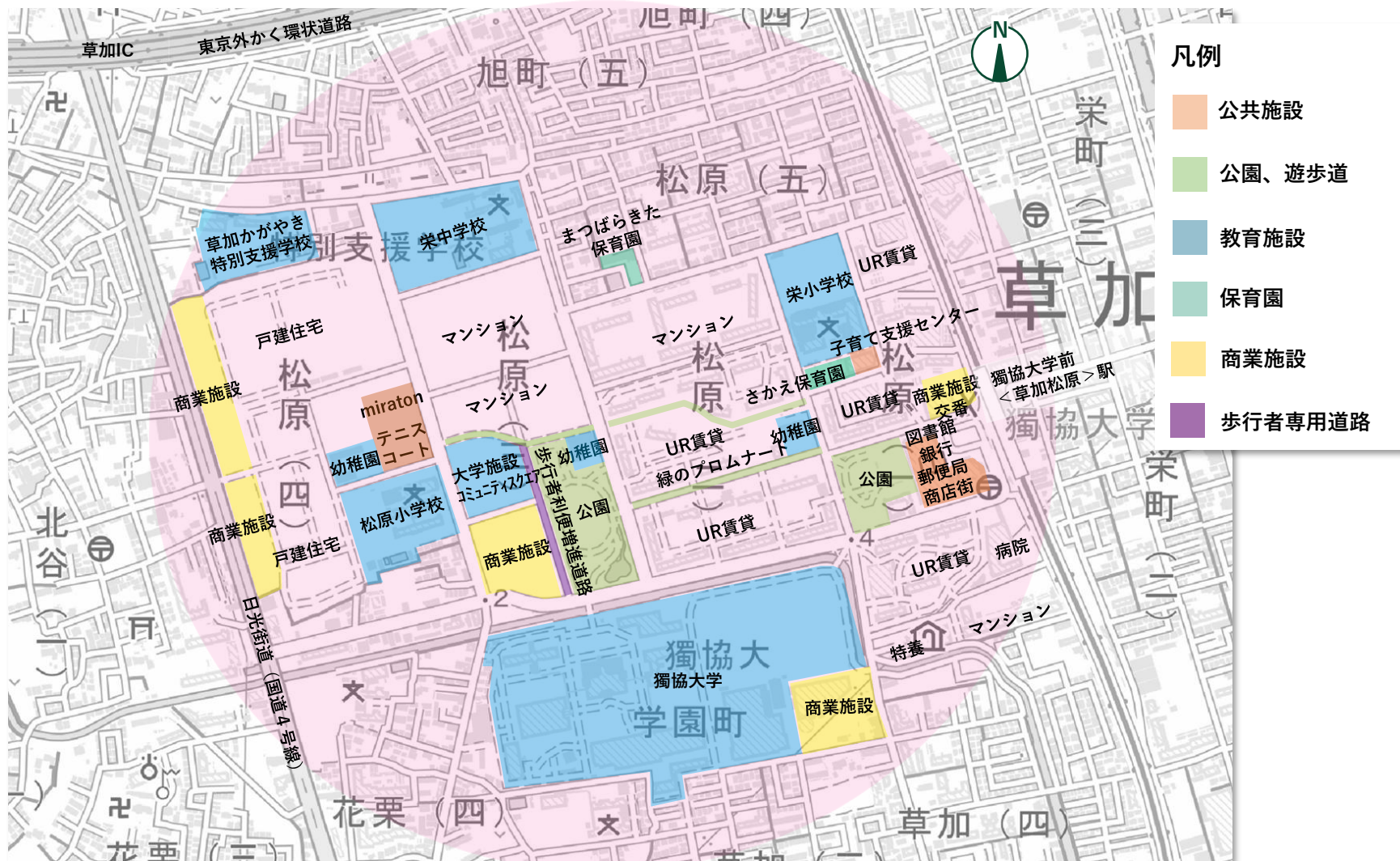
今後も地域の様々な資源を活用し、官民が連携した魅力のあるまちづくりを共に進めていきましょう。



1 獨協大学前＜草加松原＞駅西側地域とは

対象範囲

地域の対象は、旧草加松原団地やハーモネスタワー松原を中心とした範囲（約57.6ha）の周辺としました。
 なお、まちの状況を勘案し、今後柔軟に範囲の見直しを行います。



地域のあゆみ



2 未来ビジョン

▼ 未来ビジョンとは？

より良いまちにしていけるためには、行政だけでなく、住民、企業、団体が地域の持つポテンシャルを最大限生かしながら、コミュニティなどの課題解決に向けて考え、行動することが大切です。

将来どんなまちにしたいのかという、具体的な目標や理想をイメージし、まちに関わる様々な方が、同じ目標に向かって取り組むことを目指して策定する地域の将来像です。

現状：地域内各ステークホルダーが各自まちの未来を考えている状態



エリアプラットフォーム

みんなが共通の「地域の未来（未来ビジョン）」に向かって
互いに「活かし合い」ながら進んでいく

地域の未来をみんなで
一緒に考えていくための場



地域の未来
（未来ビジョン）



地域価値の向上、持続可能なまちの実現を目指す

現在の獨協大学前
＜草加松原＞駅西側地域は、
さまざまなステークホルダー
が各自まちの未来を考え、
活動を行っている状態です。
共通のビジョンを持つことにより、
地価の上昇をはじめとした地域価値の向上や、多様な人材などを惹きつける持続可能なまちを目指します。

策定にあたっての取組

本ビジョン策定にあたり、地域事業者、地域団体、住民等の地域の方々と以下の取組を重ねることで、地域の現状把握や未来に向けた構想を行いました。実施してきたプロセスを次に示します。

1 | ヒアリング／地域の現在地の把握

地域で活動する事業者、団体に対して、現在地を把握することを目的としたヒアリングを実施しました。

■内容：現在の取組／本地域の特徴（課題、魅力）／本地域で注目している活動／今後期待すること／検討している取組／地域内外に必要な連携のあり方

2 | ワークショップ①想いの共有

地域の事業者や団体が集まり、「地域で現在行っている活動」「地域でこれから実施したい活動」と、それらに対する想いについて、ワークショップ形式で意見交換しました。



3 | ワークショップ②未来の想像

「本地域は15年後”どんな状態””どんな姿”になっているのが望ましいか」「将来、誰に本地域のどんなところを魅力に感じて欲しいか」を参加者同士で共有を行い、未来ビジョンの言語化に向けて共感できるキーワードを抽出しました。



4 | ワークショップ③未来の想像

参加者が所属組織、個人の立場それぞれから、できること、やりたいことを共有し、今後の活動に向けてテーマ分けを行うワークショップを実施しました。



5 | アンケート調査

松原団地記念公園、獨協大学等で開催された地域イベントの来場者に向けたアンケート調査を実施しました。

■内容：まちの課題、魅力／地域でやってみたいこと／地域に必要なこと



6 | 住民ワークショップ

松原団地記念公園で開催されているマルシェにて、来場者に向けたワークショップを実施しました。

■内容：まちの課題／好きな場所、活動／地域でやってみたいこと／地域に必要なこと

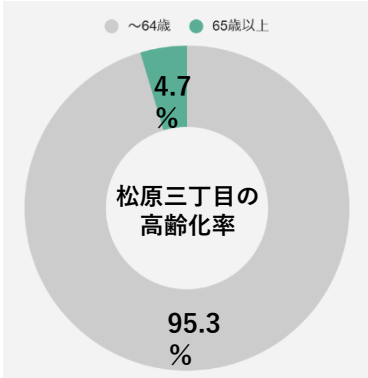
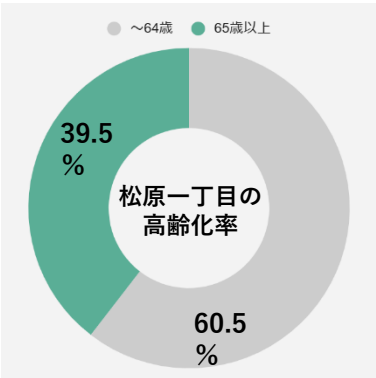
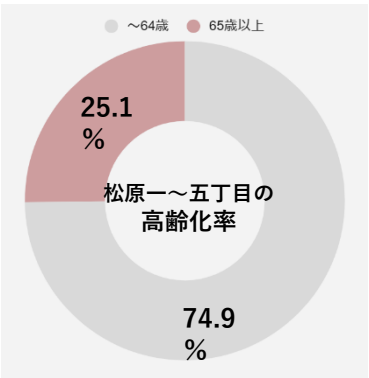
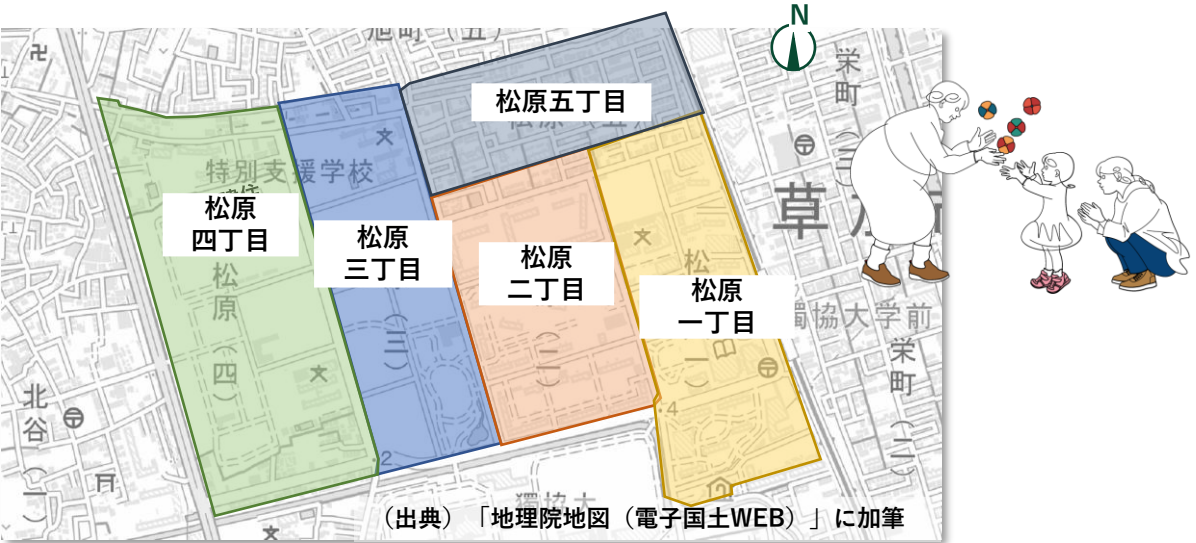
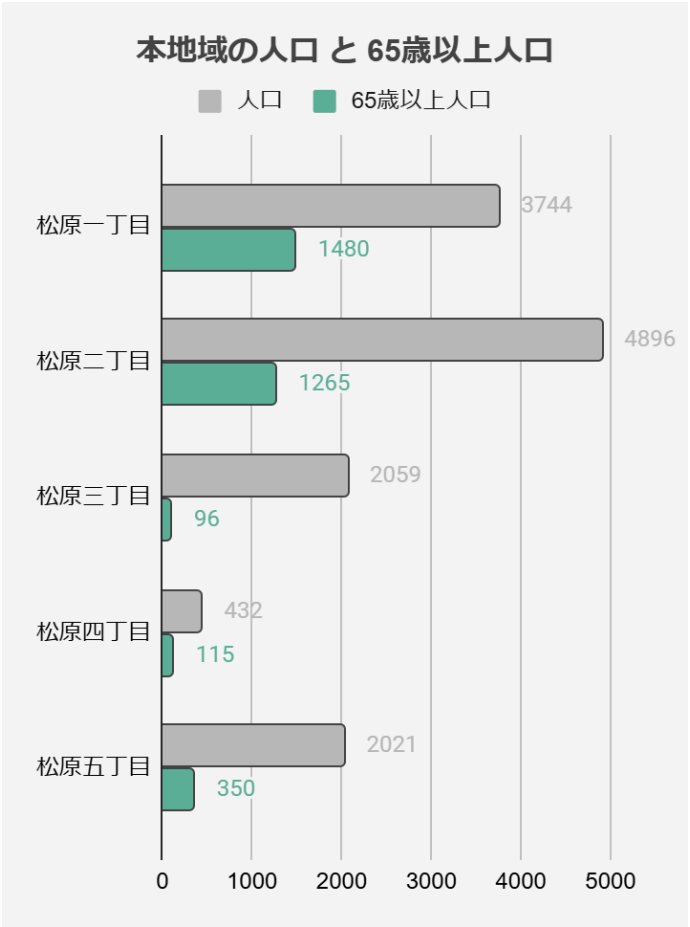


3 地域特性

本地域の全体人口のうち、65歳以上の割合は25.1%で、全市平均の24.4%と差はないものの、町名ごとに大きく差があることが特徴です。

都市再生機構の賃貸住宅が人口の大部分を占める松原一丁目は、松原団地時代から継続して居住する世帯が多いことから、65歳以上の割合が39.5%と地域平均を大きく上回っています。

一方、分譲マンションが立ち並ぶ松原三丁目は、新たに居住し始めた20代～40代の子育て世代が多いことから、65歳以上の割合が4.7%と地域平均を大きく下回っています。



(出典) 草加市住民基本台帳 (令和7年1月1日現在)

3 地域の特性

空間特性



- 凡例
- 公共施設
 - 公園、遊歩道
 - 教育施設
 - 保育園
 - 商業施設
 - 歩行者専用道路

(出典) 「地理院地図 (電子国土WEB)」 に加筆

3 地域の特性

空間特性

①ハーモネスタワー松原

中央図書館、松原ハーモネスプラザ商店街、賃貸住宅、郵便局等が入居する高層の複合施設。

②松原団地西口公園

駅前再整備を期にリニューアルされた公園。

かつて松原団地C地区商店会が行っていた盆踊りを受け継ぐ「日山盆踊り」等も開催されており、住民同士の交流の場にもなっている。

③コンフォール松原

松原団地時代から住んでいる人も多く、休憩場所や貸農園などの共用空間や、ペット共生住宅があり、綺麗に管理されている賃貸住宅。

④緑のプロムナード

歩道が広く、ベンチが設置されている道路。

地域の象徴的な風景の一つ。

⑤獨協大学

外国語学習に強みを持つ大学。

オープンカレッジをはじめとした生涯学習の場の提供などにより、地域との連携も行っている。

⑥松原団地記念公園

日常的に利用される近隣住民に人気の公園。

週末になるとイベントが開催され賑やか。

⑦市道11623号線

埼玉県内で初めて歩行者利便増進道路（通称「ほこみち」）に指定された道路。主にイベントで活用される。

⑧花栗商店街

個人経営を含めて個性豊かな様々なお店が立ち並ぶ商店街。

⑨miraton

30歳以下の子どもと若者を中心に誰でも利用できる児童青少年交流センター。

日常的に立ち寄ることができ、子どもたちを中心とした居場所。

⑩⑫マンション・戸建住宅

分譲開始と共に引っ越してきた20～40代の子育て世代が多く在住。近年地価が上昇し県内住宅地屈指の上昇率を記録した。

⑬埼玉県立草加かがやき特別支援学校

小学部、中学部、高等部（普通科）がある特別支援学校。

⑬松原団地見守りネットワーク

要支援者等が安心して生活できるように支援する活動を実施する団体



②松原団地西口公園



⑤獨協大学



⑥松原団地記念公園



④緑のプロムナード



⑥松原団地記念公園（イベント開催時）



⑨miraton

地域の魅力・特徴

○住民構成とコミュニティ

- ・ 学生、団地の建替前から住んでいた人、団地の建替後に住み始めた人（主に30～40代のファミリー層）など、エリアの住民構成が多様
- ・ 大学があることで若い人が常について、世代循環がうまくできている
- ・ 獨協大学の卒業生がまちに対しての想いが強い（大人になって近隣に住んだり活動したりする人がいる）
- ・ 地域事業者、地域団体、住民のフラットな関係性ができている

○生活環境

- ・ 個人店やチェーン店を含めた商店や学習の環境が充実しており生活環境が揃っている
- ・ miratonや松原団地記念公園など子育て環境が充実している
- ・ 半径2km圏内で生活が全て賄える
- ・ 歩道が広く、誰でも安心して外出できる空間が整備されている

○歴史と文化

- ・ 古くからあるものと新しくできたものが上手く融合している（昔から住んでいる人や商売をしている人が閉鎖的ではない）
- ・ 水辺、神社、桜、緑のプロムナードの景色や地域のお店など、それぞれに好きな場所がある

○地域活動

- ・ 自治会の活動が活発
- ・ 松原団地記念公園を中心にマルシェなどのイベントが開催されていて、家の近所で楽しめる

○地域住民の意識

- ・ 新しいものを拒絶しない風土がある
- ・ まちの変化や課題を自分ごととして考え、活動している人たちがいる
- ・ まちや地域のこどもに対して想いを持つ人が多い



地域に多様な人が暮らし、さまざまな事業者がそれぞれ想いを持って活動している。
大学が持つ学術的な「知」から、自治会や商店会で活動する方など地域に長く関わる方たちが持つ「知」、企業や地域で活動する団体が持つ「知」などがまちの中に存在し、
多様な「知（＝知識、知恵、叡智、ナレッジ）」がある。

地域の課題

○地域情報

- ・この地域で何かしたいと思ったときに誰に聞いたらいいのかというのが分かりにくい。情報が属人的になっている。
- ・各団体、事業者が持つ媒体で広報活動を行っているものの、地域の情報をまとめて発信している場（WEBやSNS含む）がなく、どのような取組が行われているかが分からない。

○高齢化

- ・外に出られない高齢者が増えていて、孤独感を感じている。
- ・松原一、二丁目は高齢化が進んでおり、地域活動の推進にも課題がある。
- ・高齢者にとって外出するきっかけが少ない。

○地域コミュニティ

- ・近所の人との交流がない。
- ・世代間交流、同世代交流のいずれも少ない。
- ・団地の建替前と比べて交流できる機会が減った。

○交通

- ・ラストワンマイルの移動手段がない。
- ・バスの本数が少ない。

○治安

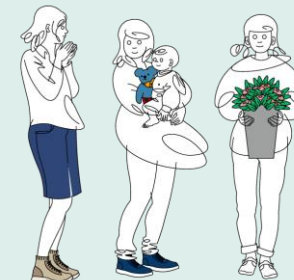
- ・落書などによる公園の破損が多い。

○文化、交流

- ・文化的な施設（映画館、本屋など）が減っている。

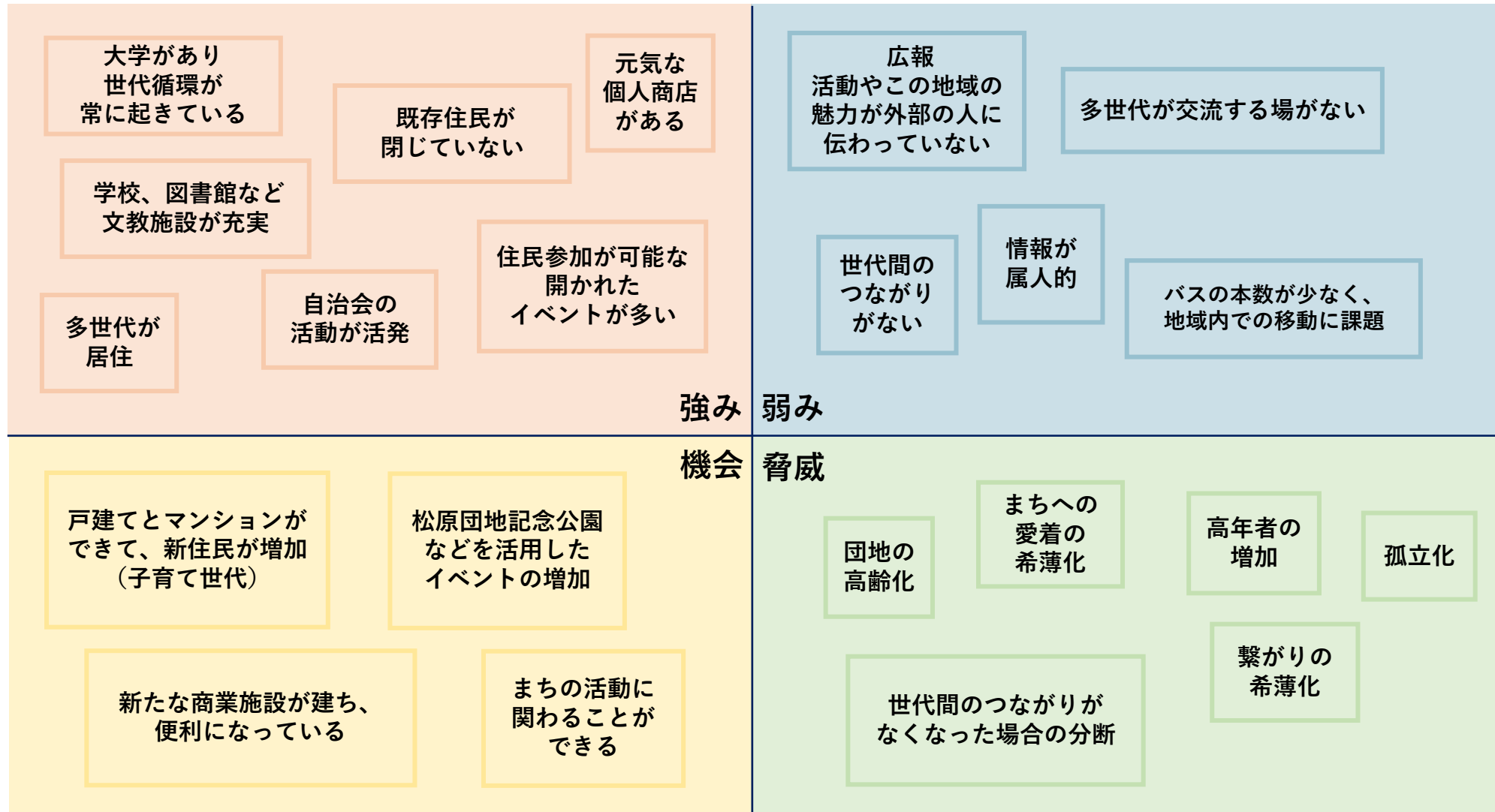
○防災

- ・住民の防災の意識が低い。



世代間交流ができる場や機会はあるものの多いとは言えず
防犯・防災意識に対しての課題もある。

また、それぞれの活動者がつながっておらず、情報が住んでいる人たちに届いていない。



求められる取組

現状

地域に多様な人が住み、さまざまな事業者がそれぞれ想いを持って活動している。

大学が持つ学術的な「知」から、自治会や商店会で活動する方など地域に長く関わる方たちが持つ「知」、企業や地域で活動する団体が持つ「知」などがまちの中に存在し、多様な「知（＝知識、知恵、叡智、ナレッジ）」がある。

しかし

課題

世代間交流ができる場や機会はあるものの多いとは言えず
防犯・防災意識に対しての課題もある。

また、それぞれの活動者がつながっておらず、情報が住んでいる人たちに届いていない。

ニーズ

交流ができる
多様な機会

やりたいこと
の実現の
後押しが
できる場や
機会

安心安全
なまちに
つながる
取組

まちの
情報発信

等が求められている

4 地域の目指す将来像

将来ビジョン（目指す状態）

暮らしの中で 「気にかけたい人」がいるまち

- ・離れても頭の中にとり続け、まちの変化を自分ごととして捉えられ、関わり続けたいと思える
- ・多世代とつながりがあるまち
(血のつながりだけではないおじいちゃんおばあちゃん、おじさんおばさん、お兄さんお姉さんのような関係性の人がいる)

心地よい「おせっかい」が 生まれるまち

おせっかいの許容量は違う中で、会話の中でその人やその時の許容できるおせっかいを読み取り、手助けすることができるまち

多世代がつながり 「知」のバトンがつながるまち

変化を楽しみ、まちで起こることを自分ごと化し続けられるまち

それぞれが持つ「知」が引き継がれ、地域全体で次世代を育むまち



住み続けたい、将来戻ってきたいと思えるまちへ

将来描きたいシーン

知のバトンがつながる



多世代がつながれる場があり
大人からこどもへ、大学生からこどもへ、
こどもから大人へ……
年齢など関係なく「知恵」「知識」等
それぞれが持つ多様な
「知」が受け継がれ、
次世代が育まれる機会がある。

自分が好きなこと、やりたいことを
発信することができ、
仲間を集めて
チャレンジできる場や機会がまちにある。



自分が住むまちに
自己実現ができる場がある

将来描きたいシーン

こどもの可能性を広げる
自分のできることでまちに貢献する



血の繋がりでないおじいちゃんおばあちゃん、
おじさんおばさん、お兄さんお姉さんのような
関係性の人たちがまちにいて、一緒にこどもの成長を
見守りながら、可能性を広げる。
こどもたちも自分ができることでまちに貢献する。
大人になってもここで暮らしたくなる。

多世代が交流できる多様な機会がある



自分の趣味や得意なことを人に教えたり、教えられたり、自分のことで
マルシェに出店してみたり。多世代が交流できる多様な機会があり、
世代を超えた友達ができ、もしものときにはつながれる。

将来描きたいシーン

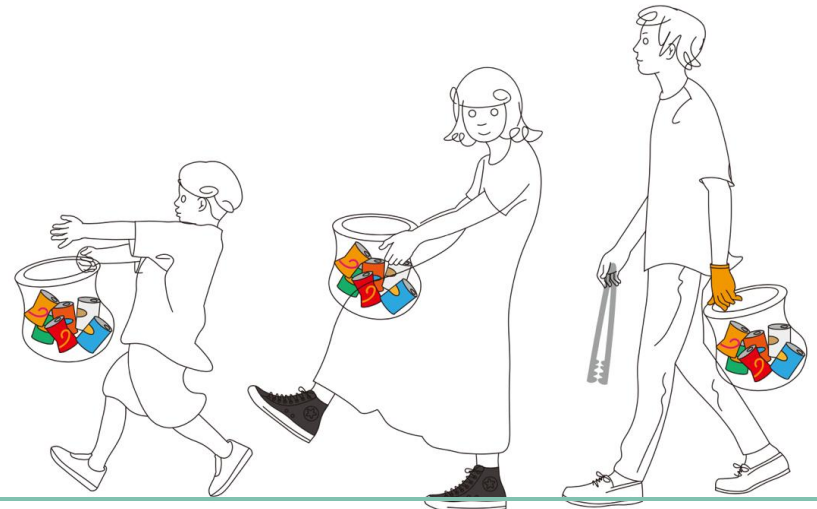
いざというときに助け合える関係性や
仕組み、場所がある



地域の日常の中に少しだけ
有事を想定した非日常の時間をつくってみる。
そこで経験したことを元に仕組みをつくり、
また実践を繰り返していく。

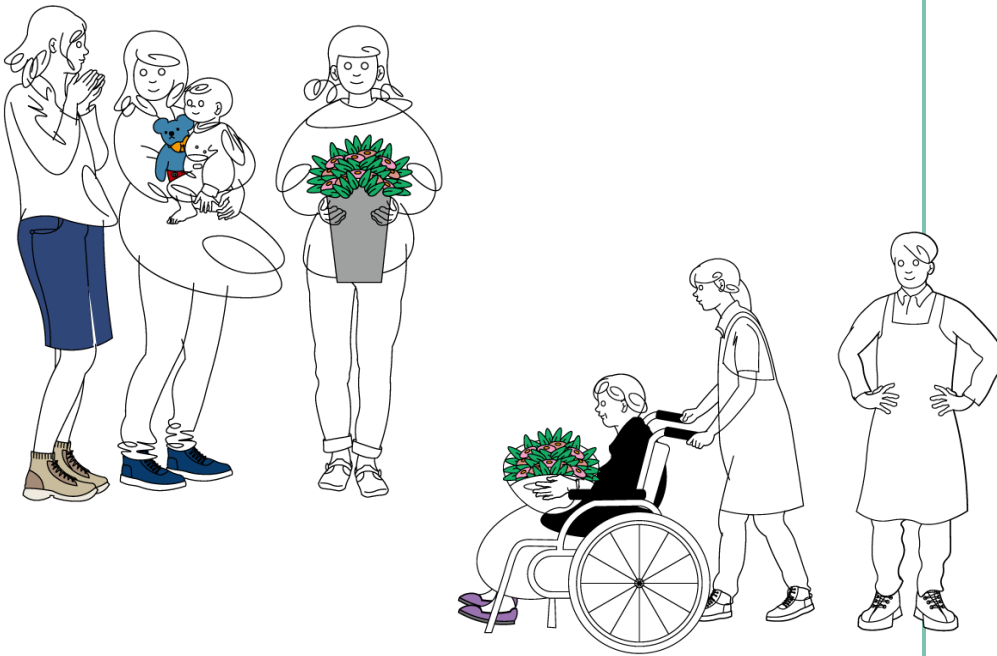
できることから
まちに貢献したくなる

最初は数人のごみ拾いなどの活動から、
輪が広がる。
顔見知りの関係が防犯につながり、
安心安全な環境ができる。



将来描きたいシーン

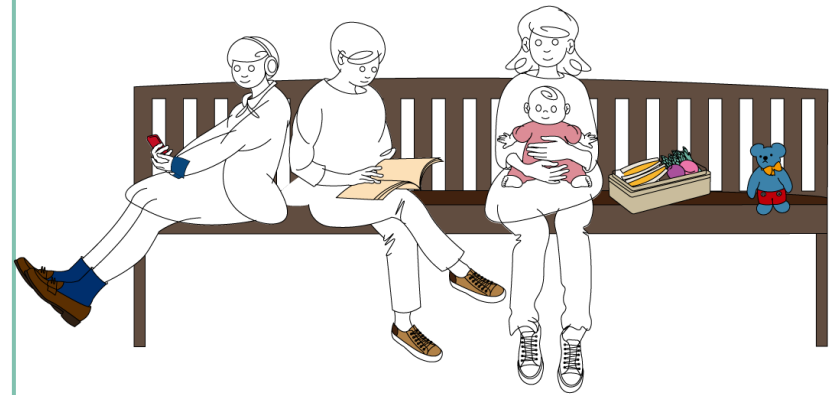
知り合いがいるから
外に出たくなる



まちに知り合いがいるから
外に出たくなる。
ライフステージが変わっても住み続けたい
まちのあの人に会いに帰ってきたくなる。

まちなかに居場所がある

公園などの公共空間だけでなく、
まちなかにベンチが置いてあったり、
休憩できる場所がある。
そこにいくと誰かに会える。



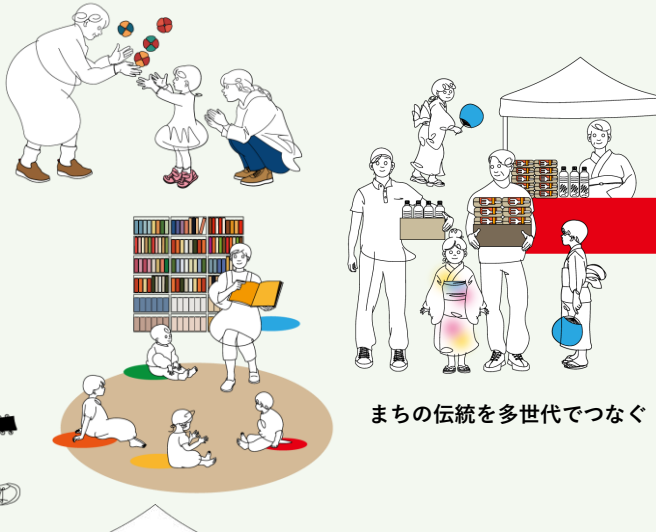
将来の活動イメージ



未来ビジョンに基づく4つの活動テーマ

多世代の
つながり
をつくる

得意を生かして
こどもたちへ伝える



まちの伝統を多世代でつなぐ

安心安全
なまち

地域で
安心して遊べる

防災キャンプ
を公園で

みんなでごみひろい



やりたい
ことの
実現

自分のやりたい活動がまちでできる
後押ししてもらえる



発信によって外から人が来る

まちのできごとを発信・情報共有

あらたな活動の発信

まちの
情報発信



5 目指す将来像に向けた施策

目指す将来像に向けた推進体制として、行政、地域事業者、地域団体、有識者が参加し、まちづくりの方向性を定める「獨協大学前＜草加松原＞駅西側エリア会議」を実施します。

また、この地域で実際に活動をしてみたいという方が集まり、本ビジョンに基づいた事業を実施する主体として「獨協大学前＜草加松原＞駅西側まちづくりミーティング」を立ち上げ、定期的な意見交換の場を設けます。

目指す将来像に向けて、「エリア会議」と「まちづくりミーティング」がそれぞれの役割を果たしながら本地域のまちづくりを推進します。

役割：
まちづくりの
方向性を定める

獨協大学前＜草加松原＞駅西側エリア会議

行政

地域
事業者

地域
団体

有識者

獨協大学前＜草加松原＞駅西側 まちづくりミーティング

個人も含む地域で活動する
方々を中心に実施

役割：
ビジョンに
基づいた
活動の実施主体



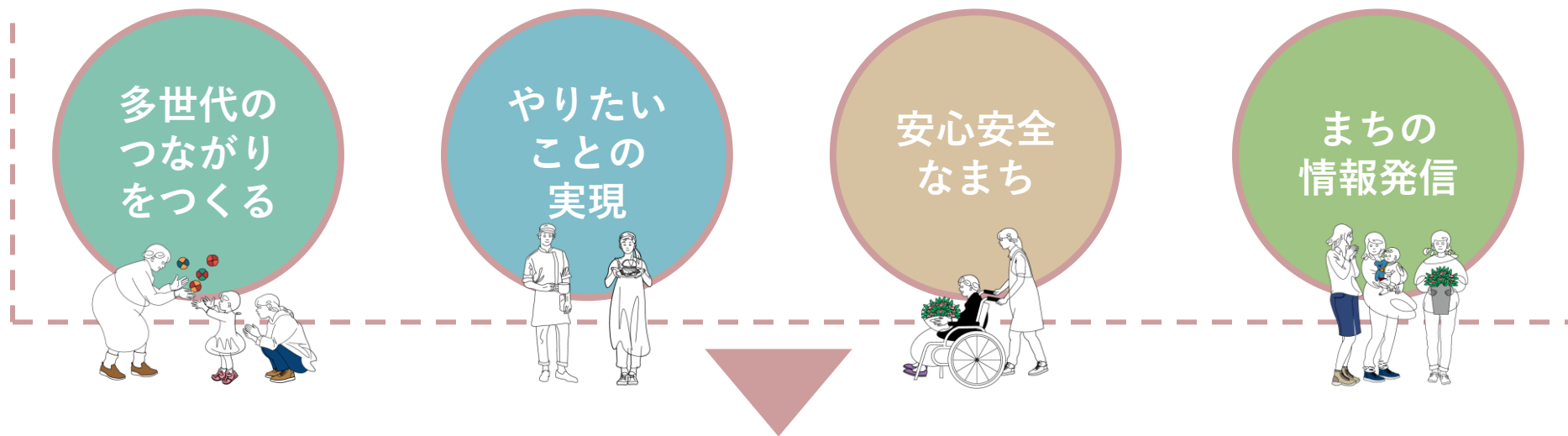
イベント・情報発信なども含む活動を実施



リーディングプロジェクト

「獨協大学前＜草加松原＞駅西側まちづくりミーティング」では、未来ビジョンで掲げた「多世代のつながりをつくる」「やりたいことの実現」「安心安全なまち」「まちの情報発信」の4つのテーマを基に、参加者である個人や団体それぞれが、この地域で「やってみたいこと」を話し合いました。このミーティングから生まれたアイデアのうち、ファーストステップとして実験的に取り組んだものが「リーディングプロジェクト」です。ここでは、令和7年度に実施したリーディングプロジェクトの取組を紹介（記録）し、成果と課題をみんなで共有することで、今後の未来ビジョンを実現する様々な活動の発展に繋げていきます。

未来ビジョンに基づく4つの活動テーマ



獨協大学前＜草加松原＞駅西側 まちづくりミーティング

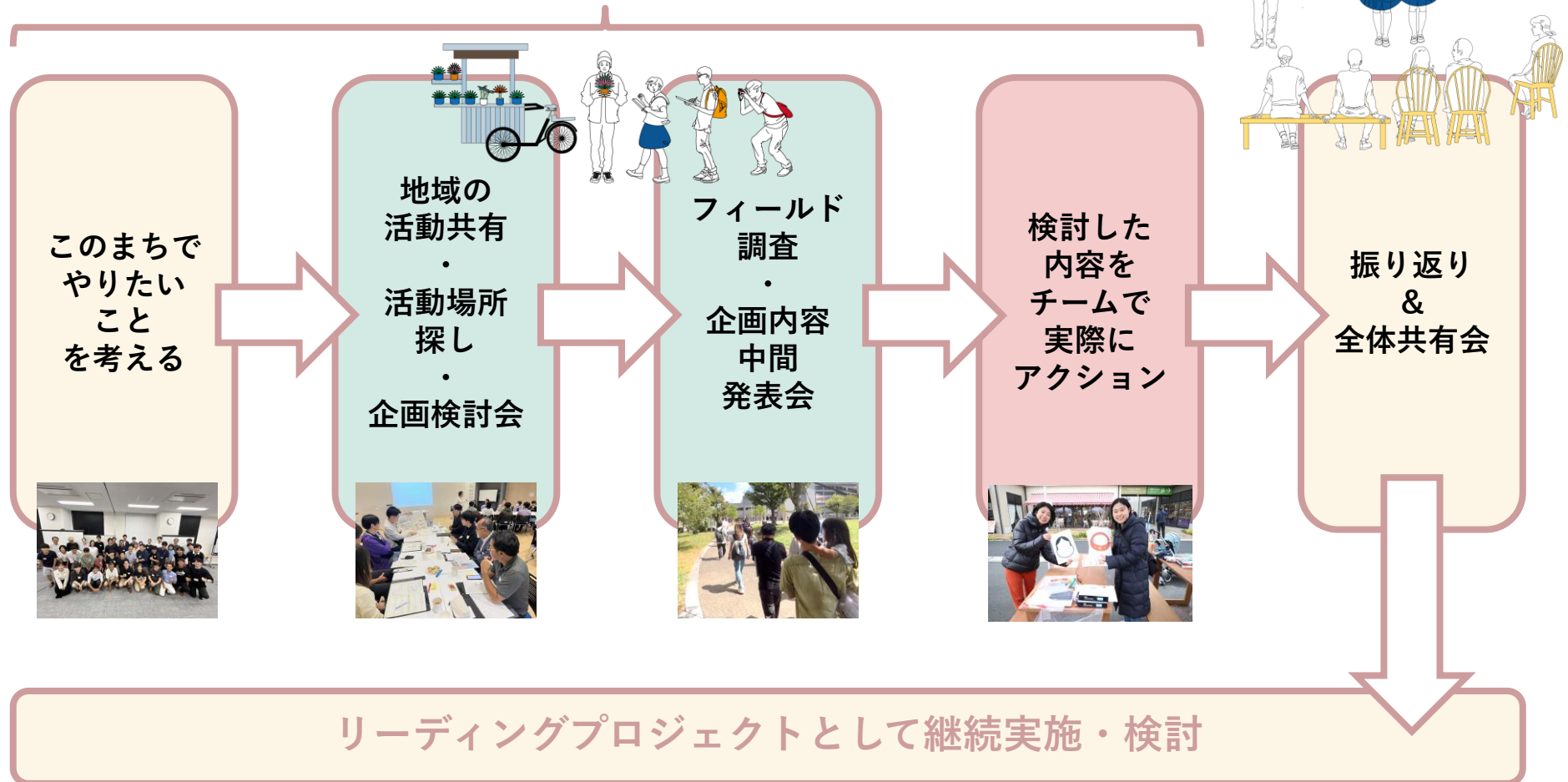
多様な人が集まり、地域の未来ややりたいことを話し合う場・実施主体

テーマに沿ったリーディングプロジェクトを検討・実践

リーディングプロジェクト

まちづくりミーティングの流れ

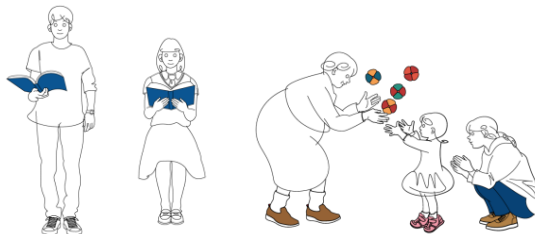
リーディングプロジェクトの検討・実施



リーディングプロジェクト

多世代の
つながり
をつくる

多世代交流、 学生の活動発信の場づくり



目的

- 在勤在学中の方を含めた地域内に暮らす住民の多世代交流を目指す学生の活動を地域に知ってもらい、大学×地域の接点を増やす。
- 「ほこみち（歩行者利便増進道路）」の活用の可能性を探る

実施内容（令和7年度）

団地に住むご高齢の方や子どもたちが遊びながら触れ合うことができる「昔遊び」ができる場の提供、獨協大学生が実施しているフェアトレードコーヒーの販売と認知向上のための取組みを実施。

実施後の成果

- 小学校から借りた「昔遊び（竹馬、こま等）」が予想以上に好評で、実際に多世代が触れ合う場を作ることができた。
- 当日だけでなく、準備期間中も異なる世代のメンバーと関わることができ、チーム内でも良好なコミュニケーションが築かれた。
- 「地域に貢献したい」という共通の目的を持って時間を共有できたこと自体が、大きな価値となった。
- 「ほこみち」などの公共空間を一体的に使いこなすことで、道行く人々も自然と足を止めるような、開かれた多世代交流の風景を生み出すことができた。

今後の方針

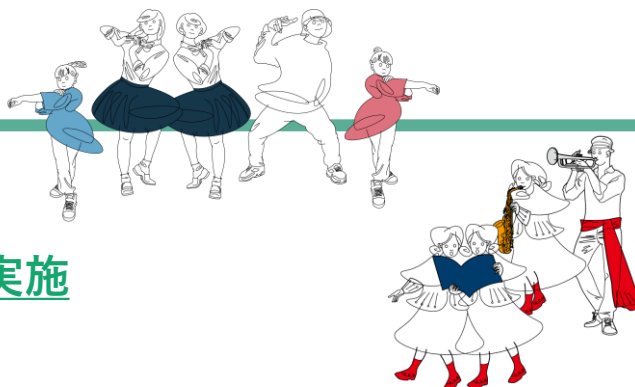
今回実施した昔遊びに限らず、興味がある人が気軽に参加できたり、継続的に活動できる仕組みづくりや、より地域を知りながら多世代を具体的なイメージにした企画立案を行いつつ、様々な世代の方も巻き込めるような仕組みづくりを行う。



リーディングプロジェクト

やりたい
ことの
実現

獨協大学駅前まちなか パフォーマンスステージの実施



目的

- 地域内でアート、音楽、スポーツ等の様々な活動に取り組んでいる方々の発表及び交流の機会を創出するなど、文化的な側面からの地域振興。
- 駅前の活性化。
- 日常の風景を変えるきっかけを提供する。

実施内容（令和7年度）

獨協大学前＜草加松原＞駅周辺の地域に住む、通う、関係するパフォーマーたちによるパフォーマンスとアンケート調査を実施。

実施後の成果

- アンケートの回答者全員が「またこの場所でパフォーマンスが開催されるのを見たい」と回答。多くの観客が駅前の雰囲気が「明るく、賑やかになった」「駅前でのこういった取り組みは嬉しい」と感じていることから、地域へポジティブな影響を与えたと言える。
- 普段あまり活用されていない駅前広場を活用することで賑わいが創出できた。
- 普段はあまり活用されていなかった駅前広場という空間をステージとして最大限活用することで、新たな「にぎわい」を創出。プロのバンド演奏などが集客力を発揮し、何気ない駅前の「日常の風景」に変化をもたらすきっかけをつくった。

今後の方針

チームメンバーだけでなく出演者、観覧者からも継続の要望があり、継続に向けて課題を洗い出した結果、謝礼なども含めた資金、運営体制、広報の面などの課題があげられた。地域の事業者含めて関わる人を増やしながらか継続できる方法を模索していく。



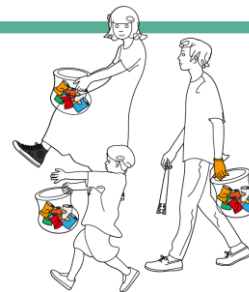
5 目指す将来像に向けた施策

リーディングプロジェクト

34

安心安全
なまち

team clean up 獨協大学前の実施



目的

- 松原団地記念公園には、お菓子ごみや風で飛んだごみが植栽に多く落ちている。
- これらのごみを公園を利用することも達に楽しく拾ってもらいながら、地域を綺麗にすることを楽しんでもらう企画。
- ごみ拾いを継続的に行うための仕組みづくり。

実施内容（令和7年度）

地域の子ども達に楽しくごみ拾いに参加してもらう企画の実施

- ①子ども達が楽しめるトンゴやごみ箱を設置②子ども達が興味を持てる看板やチラシ作成
- ③設置期間はメンバー皆で管理してみる）

実施後の成果

- 公園で遊ぶ子ども達にもごみ拾いに参加してもらい、公園もキレイになった。
- 企画を通じて住民や学生とのメンバー同士の交流を持つことができた。
- 企画を通じてメンバーも、まちをキレイにしようという意識が向上した。
- 企画を通じて、公園という地域の資源をきれいに保つことで、空間価値の向上に寄与した。

今後の方針

まちが綺麗だと治安が良くなるので、手持ちごみ箱のワークショップなどを通じて、ごみ拾い活動をもっと広めて行きたい。しかし、定期的実施する場合、ごみ箱の出し入れや管理するための体制づくりが必要である。

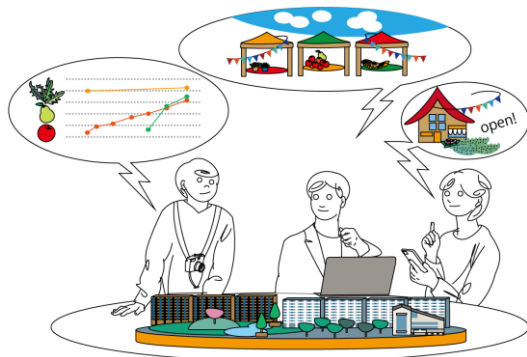


リーディングプロジェクト

まちの 情報発信

目的

- まちの情報を集約して発信する。
- 取組みに関する認知を高める。



実施内容（令和7年度）

- Instagramで統一感のある情報発信を行うため、オンライングラフィックデザインツールCanvaを活用し、フォーマットとルールを作成し、各チームで広報担当を決め、各チームの準備の様子や当日の告知などの情報発信を行った。
- エリアのイベント情報などをInstagramを活用し、情報発信を行った。
- 草加市のニュースリリースやWEBサイトでの情報発信を行った。

実施後の成果

- 情報の取りまとめと発信が可能な環境が用意できた。
- Canvaを用いた統一感のあるフォーマットにより、エリアの活動の認知度を高める効果的なブランディングができた。
- Instagramを活用することで、幅広い層へ効果的に情報が届く体制が構築できた。

今後の方針

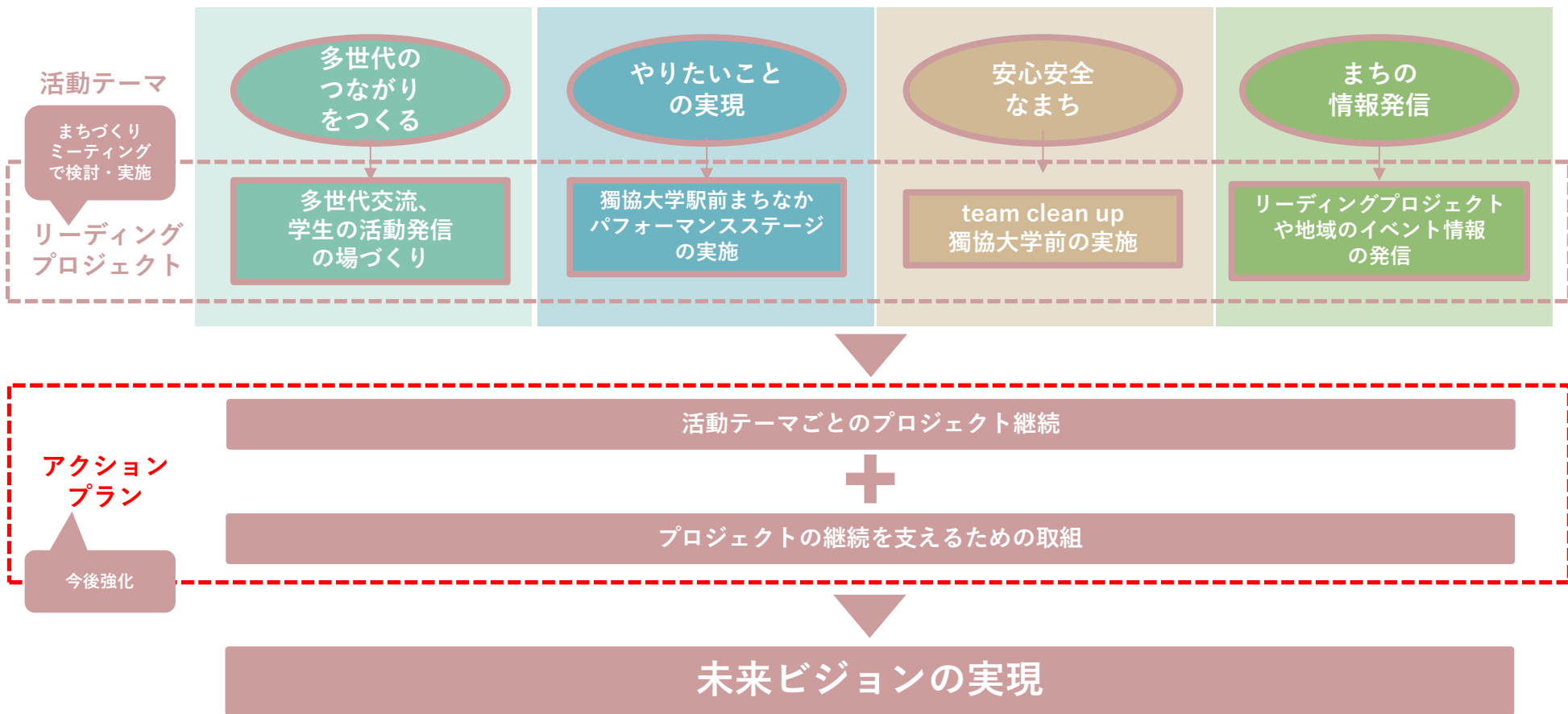
継続して地域の情報を集め情報発信を行うための仕組みと体制づくりの検討を行う。
また、スマートフォン等を持たない高齢者等も気軽に情報にアクセスできるよう、自治会等の地域ネットワークと連携したチラシ等の紙媒体の活用や、対面でまちの情報を案内し外出のきっかけを生み出す「リアルな窓口拠点」の構築を進めていく。



アクションプラン

「アクションプラン」とは、令和7年度に実施したリーディングプロジェクトの成果や課題を踏まえて、エリア会議やまちづくりミーティングとして令和8年度以降に取り組むアクションについて取りまとめた計画です。未来ビジョンVer.2で示すアクションプランでは、令和8年度での方針及び実施内容を示します。

なお、アクションプランの内容は、エリア会議やまちづくりミーティングでの議論を踏まえながら柔軟に見直し、更新し続けます。



アクションプラン（活動テーマごとのプロジェクト継続）

ここでは、「アクションプラン」として具体的に取り組んで行く4つのテーマごとのプロジェクトの方針や活動の方向性を示します。

アクションプランの方針

- 「多世代のつながりをつくる」「やりたいことの実現」「安心安全なまち」「まちの情報発信」の各テーマに基づいた取組について、リーディングプロジェクトなどで得られた方向性や課題を基に議論しながら継続、発展させます。
- プロジェクトでは、自ら活動資金を生み出す方法や持続的な仕組みなどを各テーマ共通の課題として議論します。

各テーマごとの活動の方向性（リーディングプロジェクトなどで得られた方向性や課題）

多世代の つながり をつくる



- 地域で活動する大学生、子育て世代、高年者等の様々な属性を持つ人が共存し、互いに交流を持てるような機会を創出する。
- 各世代が持つ多様な「知」を共有することで学びながら活動できる仕組みをつくる。

安心安全 なまち



- 地域全体で防犯、防災について意識することで「住み続けたい」と思えるまちとなる。
- スモールスタートで持続的な体制を検討し、地域全体に影響を与えることを実感できる取組を実施する。

やりたい ことの 実現



- アイデアを持ち寄り、自由に発表、議論し実現できる場をつくる。
- 自分の得意なことや地域の課題を解決できるなど、地域全体が自己実現の場となり得る取組を実施する。

まちの 情報発信



- Instagramやホームページを活用し、地域内外に対して取組を発信する。
- また、地域に向けた取組結果を報告するシンポジウムを開催する。

アクションプラン（プロジェクトの継続を支えるための取組）

ここでは、「アクションプラン」として具体的に取り組んで行く4つのテーマごとのプロジェクトを支えるための5つの取組みを示します。

取組み1 情報発信の強化と集約化

- エリア会議メンバーの各媒体を活用した情報発信などを検討するなど、多くの人に未来ビジョンを実現するための**活動の案内や取組が届くような工夫**をします。
- 地域の活動情報がバラバラに発信されるのではなく、**集約化する**などを検討し**分かりやすい発信の工夫**をします。



取組み2 清掃活動の継続や地域サロンの開催

- 地域で気になること、取り組んでいることなどをざっくばらんに話したり、情報交換をする交流の機会を創出するためのツールとなるように**清掃活動の継続**と**新たに社交場（サロン）を開催**します。
- 属性の異なる人の交流機会を創出することで、**新たなアイデアやイノベーションを生み出す土台**をつくります。

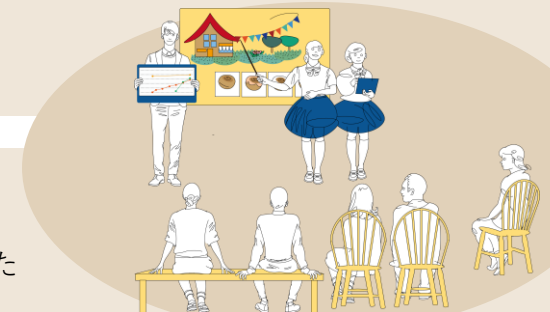


取組み3 地域のお試し拠点の開設

- 地域の人などが気軽に立ち寄れ、**個人や地域のやりたいことの支援・応援や情報集約、交流促進に繋がる仕掛けづくり**のために、市役所職員が常駐する地域のお試し拠点を定期的に開設します。
- 地域事業者や住民等に対し、現在地域に対して感じていることや必要となる取組について**ヒアリング、アンケートを行いニーズを把握**します。

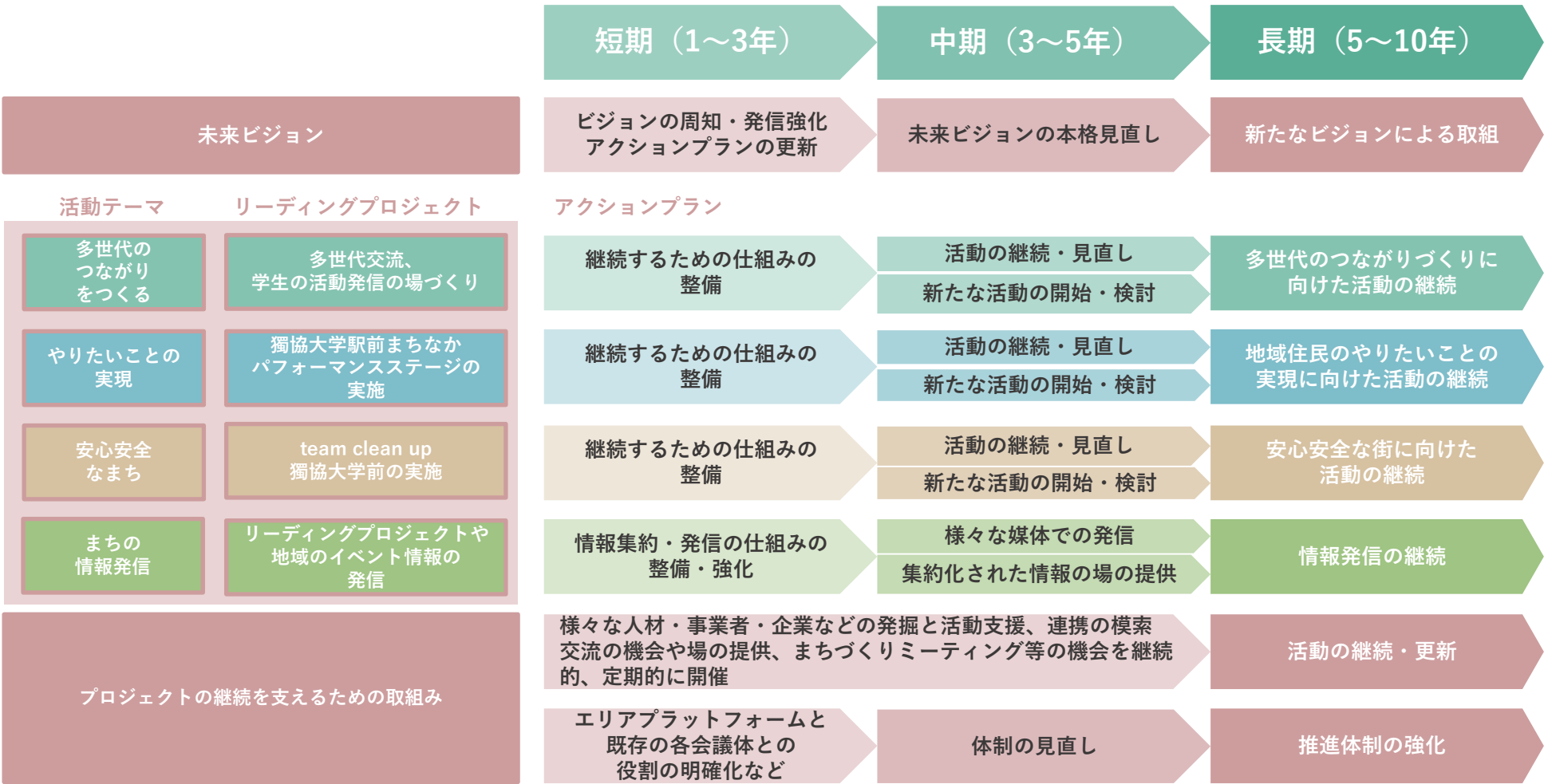
取組み5 まちづくりシンポジウムの開催

- 引き続きシンポジウムを開催することで、まちづくりミーティングでの取組共有やゲストを迎えたパネルディスカッションなどを通じた**地域の未来について意見交換をする場**を設けます。



ロードマップ

ビジョン実現に向けてのロードマップを次のとおり示します。



おわりに ～まちづくりに参加したい方へ～

40

獨協大学前＜草加松原＞駅西側地域のまちづくりに興味がある個人、企業、団体の方へ

「多世代がつながり、知のバトンがつながるまち」の実現に向けて一緒に活動してくれる方を募集しています。

まずは、ごみ拾いなどの活動に参加することから、イベントのお手伝いをしてみたり、イベントの企画をしてみたり、
いろいろな方々と話すことから参加してみませんか？

知る

まずはこの地域で起きていることを
知ることから。
公式LINEをフォロー
していただくと地域の情報を
受け取ることができます！



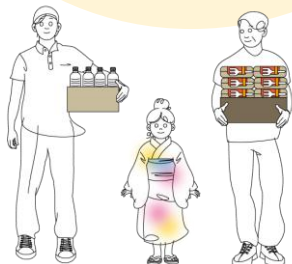
参加する

イベントに参加したり、
会議に参加したり、
まずは地域で活動する人と
交流してみましょう！



企画する

自分のやりたいことを提案して、
一緒にできる仲間を見つけて、
企画・実行してみましょう！
コラボレーション企画等も
生まれるかも!?



あなたのご参加を
お待ちしております！



SOKA.MATSUBARA

獨協大学前＜草加松原＞駅西側エリア会議

お問合せ先：dokkyowest@gmail.com

事務局：草加市都市整備部都市計画課

公式Instagramでは獨協大学前＜草加松原＞駅西側地域のイベントや活動の情報を発信していきます！ぜひご登録ください。